



1 開会式 13:30~13:40

2 鼎談「歴代ICEBAを振り返る」 13:40~14:10

登壇者 ラムサール・ネットワーク日本 理事 榎木県小山市長 新潟県佐渡市長
呉地 正行 氏 浅野 正富 氏 渡辺 竜五 氏

3 基調講演「生物多様性保全・脱炭素に向けた農業」 14:10~15:10



講師 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授 橋本 禅 氏

講師略歴

自然の恵み(生態系サービス)の可視化や将来予測を通じた意思決定の支援を目指して研究に取り組む。環境省の生物多様性及び生態系サービスの総合評価、IPBESのアジアオセアニア地域評価、地球規模評価に参画。2018年からはIPBESの運営に科学・技術的な助言を行うために設けられた学際的専門家パネルメンバーを務める。

4 情報提供 15:10~15:50

今日、気候変動対策と生物多様性の保持回復は、世界的な取組課題となっています。農業、生物多様性、脱炭素をめぐる最近の動向について、国の政策の視点から情報提供を行います。

1「生物多様性を表示した農産物の流通」



農林水産省 バイオマス政策課 米どりの食料システム戦略グループ長 久保 牧衣子 氏

2「脱炭素×生物多様性保全を目指して」



環境省 関東地方環境事務所 所長 松本 啓朗 氏

5 事例報告 15:50~17:00

日本国内や、近隣諸国である中国、韓国では、生物多様性保全、環境に優しい農業、有機農産物の供給などの事例がたくさんあります。開催地・佐渡における取組と、各地の先進事例をご紹介します。

1「トキとの共生を目指した農業」



佐渡農業協同組合 営農振興部 販売企画課 山田 慎 氏

2「韓国における有機給食の推進状況」



慶熙(キョンヒ)大学 兼任教授 姜 乃榮 氏

3「持続可能な社会を目指す上での農業分野での取組」



パタゴニア日本支社 パタゴニアプロビジョンズ ディレクター 近藤 勝宏 氏

4 動画放映 「THE GREAT TINY THINGS 偉大なる小さきものたち」(中国・塩城市)

6 サイドイベントからの提案(動画放映) 17:00~17:20

環境保全型農業を行っている新潟県佐渡市・兵庫県豊岡市・栃木県小山市・宮城県大崎市の小学生たちが、「佐渡の宝物」を探してくれました。交流会のようすを、子どもたちが発表します。



1 分科会 ※各会場へのシャトルバス有り 9:00~10:30

1 第1分科会「生物の多様性を育む農業のすすめ」 会場 トキ交流会館

トキ放鳥から15年、佐渡の米づくりは生きものを育む農法を継続しつつ、より良い形を模索してきました。生きものを育む農業は持続可能な地域づくりに繋がることから、全国で様々な取組がされています。各地の事例から、生きものを育む農業に必要な考えを整理し、取組拡大に向けて歩むべき道を探ります。



座長 日本雁を保護する会 代表 呉地 正行 氏

日本雁を保護する会・会長、ラムサール・ネットワーク日本・元共同代表。稀少ガン類の復元や、生物多様性を活かし、循環型農業をめざす「ふゆみずたんぼ」に広く関わる。ラムサール賞(湿地の賢明な利用部門)受賞(2022)。

サブ座長

NPO法人たんぼ 理事長 船橋 玲二 氏

ラムネットJ理事。たんぼの生物多様性向上のために、ふゆみずたんぼの普及、環境学習、地域づくりなどに取り組む。

パネリスト

徳島県小松島市役所 産業振興部 部長 茨木 昭行 氏

産業振興課長、産業建設課長等を歴任。同市生物多様性農業推進協議会の設立や、同市有機農業推進計画の策定等に從事。

パネリスト

(農)アグリスターオナガ 代表 濱田 栄治 氏

水稲を中心に、水耕レタスなど少量多品目の野菜を生産。無農薬・減農薬にこだわり、地域の学校田の指導も行う。

パネリスト

農家(認証米「朱鷺と暮らす郷」生産者) 佐々木 邦基 氏

農業に頼らない、トキや生きものに優しい米作りを行うとともに、小学生などへの環境教育にも取り組む。

2 第2分科会「地域再生農業(生物多様性と脱炭素)」 会場 両津図書館

生きものを育む農業が広まる中、気候変動がもたらす悪影響に対峙・適応しつつ、温室効果ガス削減にも貢献する地域再生農業のあり方が問われています。ICEBAの場から、好事例を発信するとともに、その動きをさらに大きくする方法を考えます。



座長 (公財)地球環境戦略研究機関 上席研究員 藤野 純一 氏

初・佐渡来島は2019年5月。2022年12月の生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)inモントリオールに参加。本業は日本やアジアの国・地域での脱炭素・SDGsで、環境省「脱炭素先行地域」評価委員会座長代理等を務める。

サブ座長

NPO法人民間稲作研究所 理事長 館野 廣幸 氏

1954年、栃木県の農家生まれ。1992年より有機農業に転換。現在、「館野かえる農場」として有機稲作など15haを経営。

パネリスト

コープ自然派事業連合 代表理事 理事長 岸 健二 氏

1989年からコープ自然派生協設立活動参加。西日本2府8県で有機たんぼを拡げ、コウノトリの棲息環境づくりを事業課題として掲げる。

パネリスト

NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク 藤井 絢子 氏

滋賀県在住。食の安全性を求めて地域生協づくりに関わると共に、琵琶湖で環境専門の生協を立ち上げる。

パネリスト

(有)齋藤農園 代表取締役 齋藤 真一郎 氏

トキと共生する農業にいち早く取り組んだ1人。朱鷺と暮らす郷認証米や自然栽培米など水稲、果樹、ハウスイチゴなどを手掛ける。

パネリスト

パタゴニア日本支社 リジェネラティブ・オーガニックリサーチ担当 木村 純平 氏

リジェネラティブ・オーガニック農業に対する共感・賛同・実践者を国内に増やし、環境再生可能な農業へと移行するサポートを行う。

